



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和2年度 第6号
令和2年 9月1日

本を読もう。おうち時間が増えた今がチャンスです。

校長 水野 裕司

夏休みが明けて、1週間が経ちました。個人面談では、猛暑の中、学校にお越しくださりありがとうございました。感染症対策で例年とは違う中での子供たちの家庭や地域での様子を伺うことができました。今後の学校生活での指導に生かしていきたいと考えています。

8月の初めに、学校図書館司書から、児童の読書指導の状況について報告を受けました。

ある学級では、担任と相談して読書指導に力を入れ、7月末までの貸し出し数が、一人平均74冊にもなったそうです。その結果、5月当初と7月末では、子供の読む本が大きく変わっていました。2人の児童を例に比較してみると以下ようになります。

	見開きの文字数	絵の占める割合
Aさん	130文字→520文字	2分の1以上 → 4分の1程度
Bさん	30文字→180文字	9割(絵本) → 3分の2程度

(本をコピーした方が、分かりやすいのですが、著作権がありますので、数字でイメージしてみてください。)

「これまでは、読書好きの子供を育てるために、素敵な本を紹介することに力を入れてきました。でも、今回のことで、たくさん読むように指導することの大切さにも気が付きました。私にとって新しい発見でした。」と、とても嬉しそうに話してくれました。

私は小学生の時に、江戸川乱歩などの推理小説を夢中になって読んだ記憶があります。学校の図書室の推理小説を全部読みました。あの時の読書で、読むことへのハードルが下がり、その後の読書の広がりにつながり、学ぶ力の基礎になった気がしています。

今回のコロナウィルスへの対応で痛感しているのが、自分で学びを進める力を育てることの重要性です。その基盤は、「読む力」だと考えます。関心をもったことについて、知識を蓄えたり、考えを深めたりするためには、まず読むことが必要です。学校では、国語の時間に、文章を整理して詳しく読んだり、深く読んだりする指導をしていきます。しかし、たくさん読む時間を確保するのは、難しいのが現状です。

まだまだ暑い日が続くと思います。涼しい部屋の中にいると、ゲーム、マンガ、テレビ、動画、SNS・・・と、気楽に楽しめるものはたくさんありますが、読書を通して素敵な本と出合ってもらいたいと考えています。ご家庭でも、お子さんへの声掛けをよろしく願います。

—今後の授業の進め方について—

今年度、5月末まで臨時休校となったことを受け、1時間(1コマ)35分で、学習指導要領に示されている標準の授業時間を確保するようにしてまいります。

今後、更なる臨時休校や学級閉鎖等があった場合に備え、全学年で標準の授業時間に加えて、概ね100時間の予備の授業時間を計画しています。これは、1日7時間、週35時間と考えると約3週間分の時間となります。今後、順調に授業を進めることができた場合には、2月末で、学習を終わらせ、3月には、復習の時間をしっかり確保したいと考えています。